

ジャーナリズムを学ぶ者のための 150 冊

2024 年 α 版

専修大学文学部ジャーナリズム学科

1 著者 1 冊を基準としているので、読んで心に響いた作家の本は、芋づる式に別の作品も読むことを薦める。また、専門書は除き、読みやすい著作を中心にリスト化している。逆にいえば、ここに挙げた作家の名前は知っていることが望まれるし、リストアップされていない作品でもよいから、何か 1 冊は読むようにしよう。

★印は、「最初の 1 冊」としておすすめ本

時代を読み解く

- 「憲法を考える本」井上ひさし選、光文社文庫 ★
「『日本国憲法』を読み直す」井上ひさし・樋口陽一、講談社文庫
「吉里吉里人 上・下」井上ひさし、新潮文庫
「私の憲法勉強—嵐の中に立つ日本の基本法」中野好夫、講談社現代新書（絶版）
「民主主義—文部省著作教科書」文部省、径書房
「永遠平和のために」イマヌエル・カント、綜合社
「世界を揺るがした十日間」ジョン・リード、岩波文庫
「現代政治の思想と行動」丸山眞男、未来社
「日本の思想」丸山眞男、岩波新書
「田中角栄研究 全記録 上・下」立花隆、講談社文庫
「ルポルタージュ 日本の幸福」斎藤茂男、共同通信社 ★
「事実が『私』を鍛える」斎藤茂男、太郎次郎社
「斎藤茂男 取材ノート 1-5」斎藤茂男、築地書館
「新聞記者を取材した」斎藤茂男、岩波書店
「市民権とは何か」デレック・ヒーター、岩波人文書セレクション

そのほか・・・

- 「<民主>と<愛国> 戦後日本のナショナリズムと公共性」小熊英二、新曜社
「憲法の『空語』を充たすために」内田樹、かもがわ出版
「最高裁物語」山本祐司、講談社文庫
「悪魔のサイクル」内橋克人、文藝春秋
「貧困大国アメリカ」堤未果、岩波新書
「社会の真実の見つけ方」堤未果、岩波ジュニア新書

歴史に学ぶ

- 「暗黒日記」清沢冽、ちくま学芸文庫 ★
「敗北を抱きしめて 増補版—第二次大戦後の日本人」ジョン・ダワー、岩波書店 ★
「昭和史 1926—1945」半藤一利、平凡社
「夢顔さんによろしく 最後の貴公子・近衛文隆の生涯」西木正明、文春文庫
「彼らは自由だと思っていた—元ナチ党员十人の思想と行動」M. マイヤー、未来社 ★
「夜と霧 新版」ヴィクトール・フランクル、みすず書房 ★
「白バラは散らず 改訳版—ドイツの良心シヨル兄妹」インゲ・シヨル、未来社 ★
「歴史とは何か」E. H. カー、岩波新書

※このほか、別冊 **琉球・沖縄を知る** を参照。

そのほか・・・

- 「きけわだつみのこえ」日本戦没学生記念会編、岩波文庫
「歴史への招待 24 日米開戦日を追え」日本放送出版協会
「原爆体験記」広島市原爆体験記刊行会編、朝日選書
「関東大震災」吉村昭、文春文庫

「太平洋戦争と新聞」前坂俊之、講談社学術文庫
「ヒロシマ」ジョン・ハーシー、法政大学出版局

表現の自由を考える

「1984年」ジョージ・オーウェル、早川書房 ★
「華氏451」レイ・ブラッドベリ、早川書房 ★
「言論・出版の自由」ジョン・ミルトン、岩波文庫
「表現の自由とは何か」奥平康弘、中公新書（絶版）
 「表現の自由を求めて」奥平康弘、岩波書店
 「治安維持法小史」奥平康弘、岩波現代文庫
「国家と秘密 隠される公文書」久保亨・瀬畑源、集英社新書
「密約」澤地久枝、岩波現代文庫 ★
「運命の人 1～4」山崎豊子、文春文庫

そのほか・・・

「検閲 1945 - 1949 禁じられた原爆報道」モニカ・ブラウ、時事通信社
「閉ざされた言語空間 占領軍の検閲と戦後日本」江藤淳、文春文庫
「表現の自由と第三者機関」清水英夫、小学館 101 新書
「エロスと「わいせつ」のあいだ」園田寿、臺宏士
 『表現の不自由展』で何があったのか』臺宏士、井澤宏明

眼を育てる

「畜生道の地球」桐生悠々、中央公論 ★
「自動車絶望工場」鎌田慧、講談社文庫 ★
 「反骨のジャーナリスト」鎌田慧、岩波新書
 「死刑台からの生還」鎌田慧、岩波同時代ライブラリー
 「六ヶ所村の記録 上・下」鎌田慧、岩波書店
「原発ジブシー」堀江興 現代書館→講談社文庫
「もの食う人びと」辺見庸、角川文庫
「詞集 たいまつ I」むのたけじ、評論社
「炎は流れる」大宅壮一、文藝春秋
「共産党宣言」カール・マルクス フリードリヒ・エンゲルス、岩波文庫
 「ユダヤ人問題に寄せて ヘーゲル法哲学批判序説」岩波文庫
「職業としての学問」マックス・ウェーバー、岩波文庫
 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」岩波文庫
「道化の民俗学」山口昌男、岩波現代文庫

そのほか・・・

「権力の読みかた一状況と理論」萱野稔人、青土社
「犯罪被害者が報道を変える」高橋シズエ・河原理子、岩波書店
「戦争と罪責」野田正彰、岩波書店
「オウム—なぜ宗教はテロリズムを生んだのか」島田裕巳、トランスビュー

『A』 マスコミが報道しなかったオウムの素顔 森達也、角川文庫
「南海トラフ巨大地震 歴史・科学・社会」(叢書 震災と社会) 石橋克彦、岩波書店
「南海トラフ地震の真実」小沢慧一、東京新聞
「フクシマ論 原子カムラはなぜ生まれたのか」 開沼博、青土社

人間を考える

「テロルの決算」 沢木耕太郎、文藝春秋 ★
「深夜特急」 沢木耕太郎、新潮社
「一瞬の夏」 沢木耕太郎、新潮社
「死への準備日記」 千葉敦子、朝日新聞社
「三酔人経綸問答」 中江兆民、岩波書店
「定本 柳田國男全集」 柳田國男、筑摩書房
「君たちはどう生きるか」 吉野源三郎、ポプラ社

そのほか・・・

「ヒーローの輝く瞬間 (とき)」 ハリソン・E・ソールズベリー、日本放送出版協会
「人間の条件 上・中・下」 五味川純平、岩波現代出版
「メメント・モリ」 藤原新也、三五館
「東京漂流」 藤原新也、朝日新聞出版
「こんな夜更けにバナナかよ」 渡辺一史 北海道新聞社→文春文庫
「人は人をなぜ支えるのか」 ちくまプリマー新書
「ボランティア もうひとつの情報社会」 金子郁容、岩波新
「この三十年の日本人」 児玉隆也、新潮文庫

社会史から学ぶ

「日本の下層社会」 横山源之助 岩波文庫
「最暗黒の東京」 松原岩五郎 岩波文庫
「女工哀史」 細井和喜蔵 岩波文庫
「マッカーサーの2000日」 袖井林二郎 中公文庫
「苦海浄土 わが水俣病」 石牟礼道子、講談社文庫 ★
『『隔離』という病い』 武田徹、中公文庫 ★
「NHK問題」 ちくま新書
「原発報道とメディア」 講談社現代新書
「戦争報道」 筑摩書房
「核論 鉄腕アトムと原発事故のあいだ」 勁草書房
「日本ノンフィクション史」 中公新書
「驚きの介護民俗学」 六車由実、医学書院

そのほか・・・

「被差別部落一千年史」 高橋貞樹・沖浦和光校注、岩波文庫
「野中広務 差別と権力」 魚住昭、講談社
『『いのち』の近代史』 藤野豊、かもがわ出版

調査報道・ルポルタージュとは何か

- 「ガン回廊の朝」柳田邦男、講談社 ★
「長い命のために」早瀬圭一 新潮文庫
「老いぼれ記者魂」幻戯書房
「大統領の陰謀 ニクソンを追いつめた 300 日」カール・バーンスタイン、ボブ・ウッドワ
ード、立風書房 ★
「追及・北海道警『裏金』疑惑」北海道新聞取材班、講談社文庫
「発掘捏造／古代史捏造」毎日新聞旧石器遺跡取材班、新潮文庫
「追跡 リクルート疑惑」朝日新聞横浜支局、朝日新聞社
「黒い陽炎 県閥融資究明の記録」高知新聞編集局取材班、高知新聞社
「狙われた自治体 ごみ行政の闇に消えた命」下野新聞「鹿沼事件」取材班、岩波書店
「警察官ネコババ事件」読売新聞大阪社会部、講談社文庫（※黒田軍団の仕事である、以下同じ）
「誘拐報道」新潮文庫
「警官汚職」角川書店
「桶川ストーカー殺人事件 遺言」清水潔、新潮文庫
「遺言」新潮社
「殺人犯はそこにいる」新潮文庫
「追及 体験的調査報道」山本博、悠飛社
「謀殺下山事件」矢田喜美雄、講談社
「冷血」カポーティ、新潮文庫
「武器としての情報公開」日下部聡、ちくま新書

そのほか・・・

- 「雇用融解」風間直樹、東洋経済新報社
「何でも見てやろう」小田実、講談社文庫
「冤罪を追え 志布志事件との 1000 日」朝日新聞、朝日新聞出版
「ドキュメント自治体汚染 福島・木村王国の崩壊」吉田慎一、朝日新聞社
「証拠改竄 特捜検事の犯罪」朝日新聞取材班、朝日新聞出版
「ある勇気の記録 凶器の下の取材ノート」中国新聞社報道部、社会思想社（現代教養文庫）
「満州楽土に消ゆ 憲兵になった少年」神奈川新聞編集局報道部、神奈川新聞社
「福島にあった秘められた抑留所」紺野滋、歴史春秋社
「追われゆく抗夫たち」上野英信、岩波同時代ライブラリー
「新聞・テレビは信頼を取り戻せるか」小俣一平、平凡社新書

記者（ジャーナリスト）の実像を知る

- 「クライマーズ・ハイ」横山秀夫、文芸春秋 ★
「新聞記者疋田桂一郎とその仕事」[編]柴田鉄治・外岡秀俊、朝日選書 ★
「支店長はなぜ死んだか」上前淳一郎、文春文庫 ★
「我、拗ね者として生涯を閉ず」本田靖春、講談社 ★
「新聞記者の詩」潮文庫

「不当逮捕」講談社（岩波現代文庫）
 「私戦」河出文庫
 「誘拐」ちくま文庫
 「新聞記者の現場」黒田清、講談社現代新書
 「黒田清 記者魂は死なず」有須和也、河出書房新社
 「泥まみれの死 沢田教一 ベトナム写真集」沢田サタ、講談社文庫
 「アイダ・ターベル ロックフェラー帝国を倒した女性ジャーナリスト」古賀純一郎、旬報社
 「ジャーナリストという仕事」齋藤貴男、岩波ジュニア新書（2016）
 「キャスターという仕事」国谷裕子、岩波新書
 「ジャーナリストはなぜ『戦場』へ行くのか 取材現場からの自己検証」危険地取材を考えるジャーナリストの会・編、集英社新書

そのほか・・・

「ドキュメント新聞記者」読売新聞大阪社会部、角川文庫
 「今田勇子 VS 警察」大和田徹、三一書房
 「ニュースジャンキー」ジェイソン・レオポルド、亜紀書房
 「戦場カメラマン」石川文洋、朝日文庫
 「記者襲撃」樋田剛、文藝春秋

ジャーナリズムを学ぶ

「新聞と戦争」朝日新聞「新聞と戦争」取材班、朝日新聞出版 ★
 「ジャーナリズムの思想」原寿雄、岩波新書 ★
 「原寿雄自撰 デスク日記」弓立社
 「ジャーナリズムの可能性」岩波新書
 「ジャーナリズムの思想」鶴見俊輔（編）、筑摩書房 ★
 「ジャーナリズム」清水幾太郎、岩波新書
 「ジャーナリズムの原則」ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンスティール他、日本経済評論社
 「インテリジェンス・ジャーナリズム」ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンスティール他、ミネルヴァ書房
 「マスメディアのリアリティ」ニクラス・ルーマン、林香里訳、木鐸社
 「マクルーハン発言集 メディア論の想像力」マーシャル・マクルーハン、ステファニー・マクルーハン他、宮澤淳一訳、みすず書房
 「メディア論 人間拡張の諸相」みすず書房
 「グローバル・ヴィレッジ—21世紀の生とメディアの転換」青弓社
 「ホワッチャドゥーイン、マーシャル・マクルーハン？ 感性論的メディア論」門林岳史、NTT出版
 「デジタル・マクルーハン 情報の千年紀へ」ポール・レビンソン、NTT出版
 「ベリングキャット デジタルハンター、国家の嘘を暴く」エリオット・ヒギンズ、筑摩書房 ★
 「やむを得ぬ事情により・・・」フレッド・フレンドリー、早川書房 ★

- 「理想の新聞」ウィッカム・スティード、みすず書房 ★
 「ベスト&ブライテスト 上・中・下」デービッド・ハルバースタム、朝日文庫（サイマル出版会、二玄社版もあり） ★
 「ベトナムの泥沼から」デービッド・ハルバースタム、みすず書房
 「アメリカのジャーナリズム」藤田博司、岩波新書（絶版）
 「どうする情報源」藤田博司、リベルタ出版
 「ジャーナリズムの規範と倫理」藤田博司、新聞通信調査会（共著）
 「新聞ジャーナリズム」ピート・ハミル、日経BP社
 「新聞資本と経営の昭和史」今西光男、朝日新聞出版
 「新聞社襲撃」朝日新聞社 116号事件取材班、岩波書店
 「原発とメディア」上丸洋一、朝日新聞社 ★
 「新聞と憲法9条」上丸洋一・朝日新聞取材班、朝日新聞社

そのほか・・・

- 「ジャーナリズムの条件」ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンステール、澤康臣訳、新潮社 ★
 「グローバル・ジャーナリズム」岩波新書
 「事実はどこにあるのか」幻冬舎新書
 「英国式事件報道 なぜ実名にこだわるのか」文藝春秋
 「ニュース・エージェンシー」里見脩、中央公論新社
 「新聞統合」里見脩、勁草書房
 「メディアの興亡」杉山隆男、文藝春秋 ★
 「兵士に聞け」杉山隆男、新潮社
 「マニファクチャリング・コンセント マスメディアの政治経済学 I・II」ノーム・チョムスキー、トランスビュー
 「ジャーナリズムの原理」赤尾光史他編著、日本評論社
 「公共圏という名の社会空間 公共圏、メディア、市民社会」花田達朗、木鐸社
 「アメリカン・ジャーナリズム」大治朋子、岩波新書
 「新聞は生き残れるのか」中馬清福、岩波新書
 「アメリカ・ジャーナリズム」下山進、丸善出版
 「勝負の分かれ目」（上・下）角川文庫
 「大震災 問わずにいられない 神戸新聞報道記録 1995-99」神戸新聞社、神戸新聞総合出版センター
 「『疑惑』は晴れようとも 松本サリン事件の犯人とされた私」河野義行、文春文庫
 「ジャーナリズムの起源」別府三奈子、世界思想社
 「近代ジャーナリズムの誕生」村上直之、岩波書店
 「ジャーナリズムの道徳的ジレンマ」畑仲哲雄、勁草書房
 「ジャーナリズム考」米田綱路、凱風社
 「テレビの嘘を見破る」今野勉、新潮新書
 「NHK」松田浩、岩波新書→新版
 「地方メディアの逆襲」松本創、ちくま新書

出版を知る

「出版、わが天職—モダニズムからオンデマンド時代へ」ジェイスン エプスタイン、新曜社

「出版と政治の戦後史 アンドレ・シフリン自伝」アンドレ・シフリン、トランスビュー
「紙をつなげ！ 彼らが本の紙を造っている」佐々涼子、早川書房 ★

そのほか・・・

「美酒と革囊 第一書房・長谷川巳之吉」長谷川郁夫、河出書房新社
「藝文往来」平凡社

図書館情報学・アーカイブ論に触れる

「印刷革命」E.L. アイゼンステイン、みすず書房
「未来をつくる図書館 ニューヨークからの報告」菅谷明子、岩波新書
「図書館に訊け」井上真琴、ちくま新書
「図書館ノート 沖縄から『図書館の自由』を考える」山口真也、教育史料出版会
「図書館の自由と知る権利」渡辺重夫、青弓社
「国家と秘密 隠された公文書」久保亨・瀬畑源、集英社新書
「図書館・情報学研究入門」三田図書館・情報学会編、勁草書房
「電子書籍と出版：デジタル／ネットワーク化するメディア」高島利行ほか、ポット出版
「入門 アーカイブズの世界：記憶と記録を未来に」記録管理学会・日本アーカイブズ学会、
日外アソシエーツ
「研究者のための アメリカ国立公文書館徹底ガイド」仲本和彦、凱風社

そのほか・・・

「電子図書館・電子書籍貸出サービス：調査報告 2014」植村八潮・野口武悟、ポット出版
「図書館戦争」シリーズ全4巻(図書館戦争、図書館内乱、図書館危機、図書館革命)＋別冊2巻(I、
II) 有川浩、角川文庫
「青空文庫ものがたり」野口英司他、青空文庫
「移動図書館ひまわり号」前川恒雄 夏葉社
「移動図書館貸出記録1 蔵書まるごと消失事件」イアン・サンソム、東京創元社
「アーカイブ立国宣言」福井健策・吉見俊哉監修、ポット出版
「電子図書館(新装版)」長尾真、岩波書店

博物館と博物館資料を探求する

「博物館の誕生」関秀夫、岩波新書
「博物館へいこう」木下史青、岩波ジュニア新書
「〈総合資料学〉の挑戦 異分野融合研究の最前線」国立歴史民俗博物館編、吉川弘文館
「文化遺産シェア時代 一価値を深掘る“ずらし”の視角」加藤幸治、社会評論社
「文化資源学 文化のみつけかたと育てかた」東京大学文化資源学研究室編、新曜社
「陶磁考古学入門 やきもののグローバル・ヒストリー」野上建紀、勁草書房

そのほか・・・

「歴史研究と〈総合資料学〉」国立歴史民俗博物館編、吉川弘文館 2018

スポーツジャーナリズムに触れる

- 「現代スポーツの論点 オリンピック・パラリンピックレガシーを語り尽くす」友添秀則ほか、大修書店
「公共政策の中のスポーツ」真山達志ほか、晃洋書房
「闘争の倫理 スポーツの本源を問う」大西鐵之助、鉄筆文庫
「倫敦から来た近代スポーツの伝道師—お雇い外国人 F. W. ストレンジの活躍」高橋孝蔵、小学館 101 新書
「データで見るスポーツとジェンダー」日本スポーツとジェンダー学会、八千代出版
「歴史を変えた 50 人の女性アスリートたち」レイチェル・イグノトフスキー、野中モモ訳、創元社
「東京オリンピック 「問題」の核心は何か」小川勝、集英社新書
「東京五輪とジャーナリズム」松瀬学ほか、創文企画

そのほか・・・

- 「スローカーブを、もう一球」山際淳司、角川文庫
「東京五輪の大罪 — 政府・電通・メディア・IOC」本間龍、ちくま新書
「電通と FIFA サッカーに群がる男たち」田崎健太、光文社新書
「アスリートの科学 能力を極限まで引き出す秘密」久木留毅、ブルーバックス

メディア論を学ぶ

- 「はじめてのニュース・リテラシー」白戸圭一、ちくまプリマー新書
「世論 上/下」W. リップマン、岩波文庫
「定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行」ベネディクト・アンダーソン、書籍工房早山
「火星からの侵入—パニックの社会心理学」H. キャントリル、斎藤耕二他訳、川島書店
「パーソナル・インフルエンス—オピニオン・リーダーの人々の意思決定」E. カッツ、P. F. ラゼラスフェルド（竹内郁郎訳）、培風館
「沈黙の螺旋理論—世論形成過程の社会心理学改定復刻版」E. ノエル＝ノイマン、池田謙一他訳、北大路書房
「幻影（イメージ）の時代—マスコミが製造する事実」ダニエル J. ブーアスティン、星野郁美他訳、東京創元社
「孤独な群衆 上/下」デイヴィッド・リースマン、加藤秀俊訳、みすず書房
「情報の文明論」梅棹忠夫、中公文庫
「「声」の資本主義—電話・ラジオ・蓄音機の社会史」吉見俊哉、河出文庫

そのほか・・・

- 「誰のためのデザイン—認知科学者のデザイン原論」ドナルド A. ノーマン、新曜社
「声の文化と文字の文化」ウォルター J. オング、藤原書店
「孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生」ロバート D. パットナム、柏書房
「「キング」の時代—国民大衆雑誌の公共性」佐藤卓己、岩波書店
「テレビ的教養：一億総博知化への系譜」岩波書店
「ハマータウンの野郎ども」ポール・ウィリス、ちくま学芸文庫

- 「新ネットワーク思考—世界のしくみを読み解く」アルバート＝ラズロ・バラバシ、NHK 出版
 「メディアと日本人—変わりゆく日常」橋元良明、岩波新書
 「メディアの議題設定機能—マスコミ効果研究における理論と実証 増補版」竹内郁郎、学文社
 「コンテンツは民主化をめざす—表現のためのメディア技術」宮下芳明、明治大学リバティブックス
 「情報戦争を生き抜く」津田大介、朝日新書
 「メディア不信」林香里、岩波新書
 「マスメディアの周縁、ジャーナリズムの核心」新曜社

取材術・文章技術を身につける

- 「記者のためのオープンデータ活用ハンドブック」熊田安伸、新聞通信調査会
 「記者のための裁判記録閲覧ハンドブック」ほんとうの裁判公開プロジェクト、新聞通信調査会
 「情報生産者になる」上野千鶴子、ちくま新書
 「実践 自分で調べる技術」宮内泰介/上田昌文、岩波新書
 「殺される側の論理」朝日文庫
 「情報のさばき方 新聞記者の実戦ヒント」外岡秀俊、朝日新聞出版（新書）
 「伝え得る技法 プロが教える苦手克服文章術」高田昌幸、旬報社
 「真実 新聞が警察に跪いた日」角川文庫
 「権力 vs 調査報道」（共著）高田昌幸・小黑純、旬報社

そのほか・・・

- 「日本語の作文技術」本多勝一、朝日文庫
 「知的生産の技術」梅棹忠夫、岩波新書
 『『事件』を見にゆく』吉岡忍、文春文庫
 「墜落の夏 日航 123 便事故全記録」新潮文庫
 「調べる技術・書く技術」野村進、講談社現代新書
 「フィールドワーク」佐藤郁哉、洋泉社

ジャーナリズムを調べる

- 「現代ジャーナリズム事典」武田徹ほか監修、三省堂 ★
 「ジャーナリスト人名事典」山田健太監修、日外アソシエーツ
 「エンサイクロペディア 現代ジャーナリズム」早稲田大学出版
 「日本メディア史年表」土屋礼子編、吉川弘文館

メディア関連雑誌一覧

○総合

メディア研究（年刊、旧・マス・コミュニケーション研究）日本メディア学会
創（月刊）創出版
マスコミ市民（月刊）マスコミ市民フォーラム
総合ジャーナリズム研究（季刊）東京社・・・休刊
Journalism=ジャーナリズム（月刊）朝日新聞出版・・・廃刊

○新聞

新聞研究（月刊）日本新聞協会
新聞協会報（週刊）同
新聞年鑑（年刊）同
新聞データブック（年刊）同

○放送

GALAC（月刊）放送批評懇談会（角川書店）
放送レポート（隔月刊）メディア総研（大月書店） →オンライン化
民放Online（オンライン）日本民間放送連盟
民間放送（旬刊）同 →オンライン化
民間放送年鑑（年刊）同
放送研究と調査（月刊）NHK
放送メディア研究（年刊）同
データブック世界の放送（年刊）同
調査情報（月刊）TBS・・・休刊 →オンライン化
民放（月刊民放）日本民間放送連盟・・・休刊
AURA=アウラ（月刊）フジ・・・休刊

○出版

出版研究（年刊）日本出版学会
エディターシップ（年刊）日本編集者学会
印刷雑誌（月刊）印刷学会出版部
出版ニュース（旬刊）出版ニュース社・・・休刊

○広告 *このほか広告・デザイン関連の雑誌は非常に多い

宣伝会議（月刊）宣伝会議
アドバタイジング（月刊）電通
電通報（週刊）同
広告（月刊）博報堂
広告月報（月刊）朝日新聞社
オッホ=OJO（月刊）読売新聞社

このほか、インターネット関連の雑誌が多数ある

○法律

ジュリスト（月刊）有斐閣

法学教室（月刊）有斐閣

法律時報（月刊）日本評論社

別冊・ジャーナリズムを学ぶ者のための 150 冊

2024 年版

琉球・沖縄を知る

<沖縄・琉球の歴史>

- 「沖縄県の歴史」安里進ほか、山川出版社 ★
- 「日本にとって沖縄とは何か」新崎盛暉、岩波新書 ★
 - 「沖縄現代史」新崎盛暉、岩波新書
 - 「沖縄現代史」新崎盛暉、中公新書
- 「観光コースでない沖縄 戦跡・基地・産業・自然・先島」松元剛ほか、高文研
- 「教養講座 琉球・沖縄史」新城俊昭、編集工房東洋企画
 - 「ジュニア版 琉球・沖縄史」新城俊昭、編集工房東洋企画
 - 「高等学校 琉球・沖縄史」新城俊昭、編集工房東洋企画
- 「小説 琉球処分」大城立裕、講談社文庫
- 「琉球王国」高良倉吉、岩波新書
- 「もっと知りたい! 本当の沖縄」前泊博盛、岩波ブックレット
- 「はじめての沖縄」岸政彦、理想社

<沖縄戦>

- 「沖縄戦記 鉄の暴風」沖縄タイムス社編、沖縄タイムス社 ★
- 「沖縄戦新聞」琉球新報、琉球新報社 ★
- 「沖縄 苦難の現代史」沖縄県編、岩波同時代ライブラリー
- 「沖縄ノート」大江健三郎、岩波新書
- 「戦争と沖縄」池宮城秀意、岩波ジュニア新書
- 「一九四五年 チムグリサ沖縄」大城貞俊、さきがけ文庫（秋田魁新報社）
- 「沖縄戦の子どもたち」川満彰、歴史文化ライブラリー（吉岡弘文館） ★
- 「陸軍中野学校と沖縄戦～知られざる少年兵「護郷隊」」川満彰、歴史文化ライブラリー（吉岡弘文館）
- 「証言 沖縄スパイ戦史」三上智恵、集英社新書

<米軍施政下・戦後史>

- 「ドキュメント<アメリカ世>の沖縄」宮城修、岩波新書 ★
- 「新聞が見つめた沖縄」諸見里道浩、沖縄タイムス社 ★
- 「沖縄戦後新聞」琉球新報、琉球新報社 ★
- 「沖縄県史 ビジュアル版 1 戦後① 銃剣とブルドーザ：土地取り上げと島ぐるみ闘争」沖縄県文化振興会公文書館管理部史料編集室編、沖縄県教育委員会 ★
- 「米軍が怖れた不屈の男 瀬長亀次郎の生涯」佐古忠彦、講談社
- 「沖縄からの報告」瀬長亀次郎、岩波新書
- 「沖縄の心 瀬長亀次郎回想録」瀬長亀次郎、新日本出版社
- 「不屈 第1部—瀬長亀次郎日記 獄中」琉球新報
 - 第2部 第3部もあり

「宝島」真藤順文、講談社

「沖縄アンダーグラウンド 売春街を生きた者たち」藤井誠二、講談社文庫（新版）

「裸足で逃げる 沖縄の夜の街の少女たち」上間陽子、太田出版

※ほかに、＜伊江島＞の項を参照

＜基地問題＞

「これってホント！？誤解だらけの沖縄基地」沖縄タイムス社編集局編、高文研 ★

「これだけは知っておきたい 沖縄フェイク（嘘）の見破り方」琉球新報編集局、高文研 ★

「砂上の同盟 米軍再編が明かすウソ」屋良朝博、沖縄タイムス社 ★

「ルボ沖縄 国家の暴力 現場記者が見た『高江165日』の真実」阿部岳、朝日新聞出版 ★

「誤解だらけの沖縄・米軍基地」屋良朝博、旬報社

「沖縄と米軍基地」前泊博盛、小学館新書

「『アメとムチ』の構図 普天間移設の内幕」渡辺豪、沖縄タイムス社

「新版 沖縄の戦跡と軍事基地 美ら海・美ら島・命どう宝 平和のためのガイドブック」新版「沖縄の戦跡と軍事基地」編集委員会編、かりゆし出版

「沖縄・米軍基地の素顔」NHK沖縄放送局、NHKライブラリー

「沖縄 憲法なき戦後——講和条約三条と日本の安全保障」古関彰一ほか、みすず書房

「沖縄問題—リアリズムの視点から」高良倉吉編著、中公新書

＜日米同盟・地位協定＞

「本当は憲法より大切な『日米地位協定入門』」前泊博盛、創元社 ★

「検証地位協定 日米不平等の源流」琉球新報地位協定取材班、高文研

「日米地位協定の考え方 増補版」琉球新報、高文研

「日米安保を考え直す」我部政明、講談社現代新書

「虚像の抑止力」柳澤協二ほか、旬報社

「基地はなぜ沖縄に集中しているのか」NHK取材班、NHK出版

＜沖縄返還（密約）＞

「日米『核密約』の全貌」太田昌克、筑摩書房 ★

「歴史としての日米安保条約 機密外交記録が明かす『密約』の虚実」波多野澄雄、岩波書店

「沖縄経済処分」軽部謙介、岩波書店

「沖縄密約 『情報犯罪』と日米同盟」西山太吉、岩波新書

「他策ナカリシヲ信ゼムト欲ス」若泉敬、文藝春秋

「『沖縄核密約』を背負って 若泉敬の生涯」後藤乾一、岩波書店

＜外務省公電漏えい事件（西山記者事件）＞

「密約 外務省機密漏洩事件」澤地久枝、岩波現代文庫 ★

「運命の人 1～4」山崎豊子、文春文庫

「ふたつの嘘 沖縄密約」諸永裕司、講談社

「機密を開示せよ 裁かれる沖縄密約」西山太吉、岩波書店

「決定版 機密を開示せよ 裁かれた沖縄密約」西山太吉、岩波書店

＜沖縄メディア＞

「沖縄放送研究序説—テレビ報道の現場から」、玉城朝彦、出版舎

「沖縄言論統制史」門奈直樹、現代ジャーナリズム出版会（絶版）
「沖縄の言論—新聞と放送」辻村明・大田昌秀、南方同胞援護会（絶版）
「沖縄の新聞は本当に『偏向』しているのか」安田浩一、朝日新聞出版 ★
「報道圧力 時代を読む/沖縄の声を届ける」沖縄タイムスブックレット
「沖縄市史 第九巻 戦後新聞編」沖縄市
「沖縄反骨のジャーナリスト 池宮城秀意セレクション」池宮城秀意、ニライ社
「沖縄のアメリカ人 沖縄ジャーナリストの記録」池宮城秀意、サイマル出版会
「ヤマト嫌い—沖縄言論人・池宮城秀意の反骨」森口裕、講談社
「沖縄の戦場に生きた人たち—沖縄ジャーナリストの証言」池宮城秀意、サイマル出版会
「沖縄報道」山田健太、ちくま新書 ★

<伊江島>

「伊江島平和ガイドマップ」沖縄国際大学総合文化学部社会文化学科・石原昌家ゼミ」（財団法人わびあいの里・2005） ★
「米軍と農民—沖縄県伊江島」阿波根昌鴻、岩波新書 ★
「命こそ宝—沖縄反戦の心」阿波根昌鴻、岩波新書
「写真記録・人間の住んでいる島」阿波根昌鴻、朝日新聞

※ほかに、<米軍施政下>の項を参照

フォト・ジャーナリズムを深める

「フォトジャーナリズム」(日本写真全集)小学館、1987
「フォト・ジャーナリズム—いま写真に何ができるか」平凡社新書、2001、徳山喜雄
「戦争を止めたい フォトジャーナリストの見る世界」岩波ジュニア新書、2009、豊田直巳
「フォトジャーナリストが見た世界: 地を這うのが仕事」2014、川畑嘉文
「フォトジャーナリスト13人の眼」集英社新書、2005、日本ビジュアルジャーナリスト協会
「Coyote No. 55 旅する二人 キヤパとゲルダ 追走 沢木耕太郎」2015
「ちょっとピンぼけ」文春文庫、1979、川添浩史
「フォトグラフス—ロバート・キャパ写真集」1988、沢木耕太郎
「キャパ その青春」文春文庫、2004、リチャード・ウィーラン、沢木耕太郎
「ロバート・キャパの謎: 『崩れ落ちる兵士』の真実を追う」(写真叢書)2014、吉岡栄二郎
「ロバート・キャパ 決定版」2004、リチャード・ウェラン
「PAPA & GAPA ヘミングウェイとキャパの17年」2011
「ロバート・キャパ時代の目撃者」2004、ロバート・キャパ、リチャード・ウェラン
「血とシャンパン—ロバート・キャパ その生涯と時代」2004、アレックス カーショウ
「戦争写真家ロバート・キャパ」ちくま新書、2004、加藤哲郎
「デジタルフォトジャーナリズム (デジフォジャ BOX)」日本新聞博物館、2002
「マグナム—報道写真半世紀の証言」ラッセル ミラー、白水社 1999

* 以下では「報道写真論」で教壇に立たれた報道写真家推薦の作品集等を挙げています。

川島小鳥「未来ちゃん」
本城直季「スモールプラネット」
齋藤陽道「宝箱」
中野正貴「TOKYO NOBODY」「TOKYO WINDOWS 東京窓景」
佐藤信太郎「東京天空樹」「非常階段東京」
杉本博司「ARCHITECTURE」「THEATERS」
鬼海弘雄「PERSONA」「東京ポートレート」
PATRICK GRIES「EVOLUTION」
岩合光昭「おきて」「スノーモンキー」
宮崎学「けもの道」「アニマル黙示録」
中村征夫「海中顔面博覧会」「全・東京湾」
小林紀晴「アジアン・ジャパニーズ」
藤原新也「メメント・モリ」
樋口健二「売れない写真家になるには」「これが原発だ」
瀬戸正人「Cesium」
ニューヨーク近代美術館開館25周年記念写真展「The Family of Man」
ロバート・キャパ「崩れ落ちる兵士」作品のみ
Kristen Lubben「MAGNUM CONTACT SHEETS」
Paul Fusco「RFK」→九州新幹線開通CM YouTube 紹介
セバスチャン・サルガド「GENESIS」
荒木経惟「ARAKI」
野町和嘉「地球巡礼」

スティーブ・マカリー (Steve McCURRY)
マイケル・ウルフ (MICHAEL WOLF) 「TOKYO COMPRESSION THREE」
Manami Okazaki 「TATTOO IN JAPAN」
ブルース・ギルデン (Bruce Gilden)
吉永マサユキ「族」「申し訳ございません」
井上理津子「さいごの色街 飛田」←ルポルタージュ
外山ひとみ「ニッポンの刑務所」
林典子「キルギスの誘拐結婚」
安田菜津紀「写真で伝える仕事」「ファインダー越しの3.11」←佐藤慧 / 渋谷敦志 共著
佐藤慧「Fragments」
亀山亮「AFRIKA」「戦場」
高橋智史「素顔のカンボジア」「湖上の命 カンボジア・トンレサップの人々」
沢木耕太郎「キャパの十字架」
マグナムフォト、ブリジット・ラルディノワ「マグナム・マグナム コンパクトバージョン(日本語版)」
リチャード・ウェラン、ファン・パブロ・フシアイスプルア「ロバート・キャパ スペイン内戦」

* 以下では「報道写真論」で教壇に立たれた報道写真家の作品集を挙げています。

大石芳野

「あの日、ベトナムに枯葉剤がふった 戦争の傷跡を見つめつづけた真実の記録」くもん出版、1992. 11
「アフガニスタン戦禍を生きぬく」藤原書店、2003. 10
「愛しのニューギニア」学習研究社、1978. 2
「生命の木 アジアの人々と自然」草土文化、1998. 10
「沖縄に生きる」用美社、1986. 8
「沖縄の原像 内と外との相克」(共著)ニライ社、1988. 5
「沖縄若夏の記憶」岩波書店、1997. 6
「隠岐の国」くもん出版、1984. 7
「女の国になったカンボジア」潮出版社、1980. 12
「活気あふれて長い戦争のあと アジアの子どもたち」草土文化、1997. 3
「悲しみのソビエト 民族をあるく」講談社、1991. 6
「カメラを肩に見た世界」労働旬報社、1993. 11
「カンボジア苦界転生」講談社、1993. 11
「声・映像・ジャーナリズム」フェリス女学院大学、2005. 3
「コソボ絶望の淵から明日へ」岩波書店、2004. 4
「コソボ破壊の果てに」講談社、2002. 6
「子ども戦世のなかで」藤原書店、2005. 10
「証言する民 10年後のベトナム戦争」講談社、1984. 4
「少年パペニー」弥生書房、1983. 10
「闘った人びと ベトナム戦争を過ぎて」講談社、1988. 10
「魂との出会い」(共著 藤原書店、2007. 12
「小さな草に」朝日新聞社、1997. 4
「花黙し」ブロンズ社、1979. 11
「パプア人 いま石器時代に生きる」平凡社、1981. 3
「Hiroshima 半世紀の肖像 安らぎを求める日々」角川書店、1995. 3

「ベトナム凜と」講談社、2000. 10
「ベトナムは、いま 10年後のベトナム戦争」講談社、1985. 4
「見える日本、見えない日本」(共著) 清流出版、2003. 12
「無告の民」岩波書店、1981. 11
「夜と霧」をこえて ポーランド・強制収容所の生還者たち」日本放送出版協会、1988. 9
「夜と霧は今」用美社、1988. 12
「ワニの民 メラネシア芸術の人びと」冬樹社、1983. 7
「<不発弾>と生きる 祈りを織る ラオス」藤原書店、2008. 1
「福島 FUKUSHIMA 土と生きる」
「ソビエト遍歴」
「そえでも笑みを」
「黒川能の里 庄内にいだかれて」

桑原史成

「写真集 水俣を見た7人の写真家たち」(共著) 写真集水俣を見た7人の写真家たち編集委員会、2007
「水俣事件 The MINAMATA Disaster 桑原史成写真集」藤原書店、2013
「水俣を忘れない(写真で読む)」草土文化、2014
「水俣病」三一書房、1965
「水俣病 1960～1970」朝日新聞社、1970
「生活者群像」三一書房、1980
「水俣」径書房、1986
「水俣の人びと」草の根出版会、1998
「水俣・韓国・ベトナム」晩聲社、1982
「水俣 終わりになき30年 原点から転生へ」1986
「日本の公害」第2集・「水俣」日本図書センター、1996
「韓国原影」三一書房、1986
「高麗・李朝現代陶磁器撰」毎日新聞社、1985
「陶磁の里 - 高麗・李朝」岩波書店、1986
「韓国真惜吐露」大月書店、1990
「イムジンガン—垣間見た北朝鮮」草の根出版会、2003
「病める大国 ロシア」ニコン・平凡社、1995
「写真で何ができるか」(共著) 大月書店、1986
「報道写真家」岩波書店、1989
「報道写真に生きる」草の根出版会、1997
「桑原史成全集」第1集・『水俣』草の根出版会、2004
「桑原史成全集」第2集・『韓国』草の根出版会、1998
「桑原史成全集」第3集・『筑豊/沖縄』草の根出版会、2004
「桑原史成全集」第4集・『ベトナム』草の根出版会、1999
「アフガン アフガニスタン」1983

長倉洋海

「私のフォトジャーナリズム」平凡社新書、2010
「サルバドル 救世主の国」宝島社
「マスード 愛しの大地アフガン」宝島社
「地を這うように 長倉洋海全写真 1980-96」新潮社

「人間が好き アマゾン先住民からの伝言」福音館書店
「獅子よ暝れ」福音館書店
「ザビット一家、家を建てる」偕成社
「きみが微笑む時」福音館書店
「涙 誰かに会いたくて」PHP エディターズ・グループ
「アフガニスタン 山の学校の子どもたち」偕成社
「西域の貌」山と溪谷社
「地を駆ける」平凡社
「内戦エルサルバドルの民衆」晩聲社
「フィリピン我が祖国」れんが書房新社
「激動の世界を駆ける」講談社文庫
「フォト・ジャーナリストの眼」岩波新書
「マスドの戦い」河出文庫
「鳥のように、川のように 森の哲人アユトンとの旅」徳間書店
「ぼくが見てきた戦争と平和」バジリコ社

山本皓一

「田中角栄全記録」集英社、1985
「ニッポン『立ち入り厳禁』地帯」別冊宝島、2013
「日本の領土問題の『今』と『未来』がわかる本」晋遊舎ムック、2012
「教科書が教えてくれない 日本の領土の歴史」(歴史探訪シリーズ)晋遊舎ムック、2012
「誰も見たことのない日本の領土」宝島社、2011
「燃え上がる国境の島・尖閣諸島、竹島の歴史と真実」宝島社新書、2012
「マンガ 尖閣・竹島・北方領土 知らなきやばい国境問題」2013
「日本人がもっと好きになる尖閣諸島10の物語」2013
「日本の国境を直視する1 尖閣諸島」2012
「日本の国境を直視する2 竹島・北方領土」2012
「国境の島が危ない!」(家族で読める family book series)2010
「日本人が行けない『日本領土』—北方領土・竹島・尖閣諸島・南鳥島・沖ノ鳥島上陸記」小学館、2007
「マイナス50°Cの世界—寒極の生活」(知る知るシリーズ)現代書館 1986
「来た、見た、撮った! 北朝鮮」
「誰も知らない『アジア国境』タブー地帯」(別冊宝島 2137)2014
「地球見聞録 山本皓一写真集」(共著)1988

英伸三

「農村からの証言 写真記録」朝日新聞社、1971
「1,700人の交響詩 横須賀市立池上中学の教育記録 英伸三<教育>写真集」高校生文化研究会、1978
「子どもたちの四季 英伸三写真集」(丸木政臣文)三省堂、1979
「潮風の季節 和光中学の教育記録 英伸三<教育>写真集」(丸木政臣文)民衆社、1980
「子どもは光る 川口市立仲町小学校の教育記録 英伸三「教育」写真集」高校生文化研究会、1981
「天地無用」晩聲社、1982(叢書カメラとえんぴつ)
「カメラの眼・人間の眼 英伸三の写真塾」高校生文化研究会、1983
「偏東風に吹かれた村 英伸三写真記録1976-1982」家の光協会、1983
「新富嶽百景」(小川国夫文)岩波書店、1984
「見るわかる教育基本法」(永井憲一共編)三省堂、1985

「みず」かがくのとも傑作集（長谷川摂子文）福音館書店、1987
「英伸三が撮ったふるさときゃらばん 人の住むところどこにでも劇場ができる」晩声社、1989
「日本の農村に何が起こったか 英伸三フォトドキュメント」大月書店、1989
「一所懸命の時代 英伸三フォトドキュメント」大月書店、1990
「酒は風 『亀の翁』をつくる人びと」（首藤和弘・英愛子文）大月書店、1991
「えんや——写真集・唐津くんち」（金丸弘美文）家の光協会、1992
「町工場鋼彩百景——英伸三鉄を撮る」（日本能率協会マネジメントセンター）、1995
「鹿児島発農れんれん」日本カメラ社、1997
「山菜手帖」（菅野邦夫文）平凡社カラー新書セレクション、1997
「上海放生橋故事 英伸三、中国江南を撮る」アートダイジェスト、2001
「娘の名前は『ららら』」（祖父江真奈文）高文研、2003
「上海天空下（シャンハイのそらのした）」（英愛子文）日本カメラ社、2006
「里と農の記憶 フォトエッセイ」農林統計協会、2007
「浅草初春事始め 英伸三写真集」日本写真企画、2010
「桜狩り 英伸三写真集 昭和篇」日本写真企画、2012

宮嶋茂樹

「人間 赤尾 敏」話の特集社、1991
「俺に是非を説くな 激しき雪が好き 野村秋介 写真集」
「自衛隊 LADIES '95 陸・海・空 婦人自衛官写真集」
「ボスニアの微笑み」
「不肖・宮嶋 in イラク—死んでもないのに、カメラを離してしまいました。」アスコム、2003
「不肖・宮嶋イツデモドコデモダレトデモ」
「不肖・宮嶋 誰が為にワシは撮る」大和書房、2005
「任務 自衛隊イラク派遣記録— 都築事務所、2005
「不肖・宮嶋、再び。自衛隊レディース」イカロス出版、2008
「再起」ベストセラーズ、2011
「MIGHTY FLEET 精強なる日本艦隊」講談社、2012
「ああ、堂々の自衛隊」
「不肖・宮嶋史上最低の作戦」
「不肖・宮嶋! 撮らずに死ねるか」
「不肖・宮嶋 踊る大取材線」
「不肖・宮嶋 死んでもカメラを離しません」
「空爆されたらサヨウナラ 戦場コソボ、決死の撮影記」
「不肖・宮嶋のネエちゃん撮らせんかい!」
「不肖・宮嶋南極観測隊二同行ス」
「不肖・宮嶋の一見必撮!」
「不肖・宮嶋 金正日を狙え!」文藝春秋、2003
「不肖・宮嶋 国境なき取材団」
「私の異常な愛情 -不肖・宮嶋流戦争映画の正しい観方-」ぴあ、2004
「農は舞い降りた—アフガン従軍記 上」祥伝社、2005
「農は舞い上がった—アフガン従軍記 下」祥伝社、2005
「サマワのいちばん暑い日—イラクのド田舎でアホ!と叫ぶ」祥伝社、2005
「不肖・宮嶋ちょっと戦争ボケ〈上〉1989~1996」新潮社、2005
「不肖・宮嶋ちょっと戦争ボケ〈下〉1996~1999」新潮社、2005

- 「不肖・宮嶋青春記」ワック、2005
 「不肖・宮嶋 メディアのウソ、教えてる! (14歳の世渡り術)」河出書房新社、2007
 「不肖・宮嶋のビビリアン・ナイト 上 爆弾ポコボコの巻」祥伝社、2007
 「不肖・宮嶋のビビリアン・ナイト 下 砲弾ドカドカの巻」祥伝社、2007
 「不肖・宮嶋 戦場でメシ喰う!」ワールドフォトプレス、2008

樋口健二

- 「闇に消される原発被曝者」三一書房、1981
 「売れない写真家になるには 四日市 毒ガス島 原発」八月書館、1983
 「原発被曝列島」三一書房、1987
 「アジアの原発と被曝労働者」八月書館、1991
 「これが原発だ カメラがとらえた被曝者 (岩波ジュニア新書)」岩波書店、1991
 「日本破壊列島 1970-1990」三一書房、1992
 「闇に消される原発被曝者」御茶の水書房、2003
 「はじまりの場所 日本の沸点」こぶし書房、2006
 「環境破壊の衝撃 1966-2007 (新風舎文庫)」新風舎、2007
 「無声慟哭 VoicelessCries」2015
 「四日市 樋口健二写真集」六月社書房、1972
 「フォトドキュメント 原発 樋口健二写真集」オリジン出版センター、1979
 「毒ガス島 樋口健二写真集 大久野島毒ガス棄民の戦後」三一書房、1983
 「山よろけ 北海道じん肺 樋口健二写真集」三一書房、1992
 「原発 1973年~1995年 樋口健二写真集」三一書房、1996
 「樋口健二報道写真集成—日本列島'66-'05」こぶし書房、2005
 「原発崩壊~樋口健二写真集」合同出版、2011
 「新版 四日市 YOKKAICHI」こぶし書房、2014

石川文洋

- 「ベトナム最前線 カメラ・ルポ 戦争と兵士と民衆」1967、読売新聞社
 「週刊読売グラビア特集「写真集 これがベトナム戦争だ」1968、読売新聞社
 「写真報告 戦争と民衆 ベトナム・カンボジア・ラオス」1971、朝日新聞社
 「北ベトナム」1973、朝日新聞社
 「ベンハイ川を越えて」1974、朝日新聞社
 「ベトナム解放戦争」1977年、ベトナムに写真集を贈る運動委員会
 「写真報告 大虐殺 カンボジア・ベトナム1979」1979、朝日ソノラマ
 「写真記録ベトナム戦争」1979、すずさわ書店
 「アンコール・ワット 遺跡と民衆」1980、朝日ソノラマ
 「フリーカメラマン 孤独とロマンへの旅立ち」1986、朝日新聞社
 「戦場カメラマン」1986、朝日文庫
 「シャッターチャンスはいちどだけ 戦場カメラマンのたたかい」1986、ポプラ社
 「琉球舞踊」1987、創和出版
 「ベトナムロード 南北2400キロの旅」1987、平凡社
 「戦争と人間」1989、創和出版
 「報道カメラマン」1991、朝日文庫
 「北方四島紀行」1993、桐原書店 (共著: 井出孫六)
 「災害と人間 普賢岳・深江町からの報告」1994、創和出版

「放浪カメラマン」1995、創和出版
「報道カメラマンの仕事」1995、創和出版
「ベトナム南北縦断 2300 キロ」1996、日本放送出版協会
「写真記録ベトナム戦争」1996、金曜日
「しりたいねん」1997、倫書房（共著：灰谷健次郎）
「母を語る」1998、倫書房（共著：石坂啓ほか）
「沖縄・我が故郷」1998、ルック
「ベトナム報道 35 年」1998、ルック
「90 日間地球一周船の旅」1998、ルック
「写真は心で撮ろう」1999、岩波ジュニア新書
「大学活用法」2000、岩波ジュニア新書（共著：佐藤忠男ほか）
「アジアを生きる」2001、実業之日本社（共著：灰谷健次郎）
「石川文洋のカメラマン人生 貧乏と夢編」2003、榎出版社
「石川文洋のカメラマン人生 旅と酒編」2003、榎出版社
「戦争を起ささないための 20 の法則」2003、ポプラ社（共著：鎌田慧ほか）
「戦争はなぜ起こるのか」2004、冬青社
「死んだらいけない OPEN YOUR EYES」2004、日本経済新聞社
「日本縦断 徒歩の旅 65 歳の挑戦」2004、岩波新書
「北海道～沖縄 3300 キロ てくてくカメラ紀行」2004、榎出版社
「カラー版 ベトナム 戦争と平和」2005、岩波新書
「生きているからこそ」2006、日本標準（共著：絵門ゆう子、浜辺祐一）
「カラー版 四国八十八カ所 わたしの遍路旅」2008、岩波新書
「サイゴンのコニャックソーダ 酒こそわが人生」2009、七つ森書館
「私が見た戦争」2009、新日本出版社
「まだまだカメラマン人生」2010、新日本出版社
「フォト・ストーリー 沖縄の 70 年」2015、岩波新書

清水哲郎

「モンゴル（世界のともだち）」2014

★教員の本

植村八潮

- 『電子出版の構図』印刷学会出版部
『電子書籍制作・流通の基礎テキスト』ポット出版（共著）
『電子図書館・電子書籍貸出サービス』ポット出版（共著）

武田徹

- 『日本ノンフィクション史 - ルポルタージュからアカデミック・ジャーナリズムまで』中公新書 2017 年
『なぜアマゾンが1円で本が売れるのか』新潮新書 2017 年
『日本語とジャーナリズム』晶文社 2016 年
『948 歩目のトレンドウォーク 89-90 流行事象の光と影』主婦の友社 1989 年
『イツ・オンリー・ロックンロール・ジャーナリズム』ビクターブックス 1989 年
『紛いもの考 シミュレーションと戯れる時代』CBS ソニー出版 1989 年
『流行記 トレンドの表層と深層』日本経済新聞社 1990 年
『「流行」とは何か 情報消費社会の生態と風景』PHP 研究所 1991 年
『世紀末風俗研究 情報消費社会のフィールドワーク』PHP 研究所 1992 年
『ジャーナリストは「日常」をどう切り取ればいいのか』勁草書房 1992 年
『知の探偵術 情報はいかに作られるか』別冊アクロスパルコ出版 1994 年
『メイド・イン・ジャパン・ヒストリー 世界を席捲した日本製品の半世紀』徳間文庫 1995 年
『メディアとしてのワープロ 電子化された日本語がもたらしたもの』ジャストシステム 1995 年
『偽満州国論』河出書房新社 1995 年、中公文庫 2005 年
『「隔離」という病い 近代日本の医療空間』講談社選書メチエ 1997 年、中公文庫 2005 年
『蘇るウィリアム・モリス ハイテク時代の職人哲学』徳間文庫 1997 年
『流行人類学クロニクル』日経 BP 社 1999 年
『デジタル社会論』共同通信社 1999 年
『「IT 革命」原論』共同通信社 2000 年
『若者はなぜ「繋がり」たがるのか ケータイ世代の行方』PHP 研究所 2002 年
『「核」論 鉄腕アトムと原発事故のあいだ』勁草書房 2002 年、中公文庫 2006 年
増補版『私たちはこうして「原発大国」を選んだ』中公新書ラクレ 2011 年
『戦争報道』ちくま新書 2003 年
『調べる、伝える、魅せる! 新世代ルポルタージュ指南』中公新書ラクレ 2004 年
『ニッポンの素 ルポ「今」を支える素材産業』新宿書房 2004 年
『NHK 問題』ちくま新書 2006 年 → 『NHK 問題 2014 年増補版』(Kindle 版) 2014 年
『殺して忘れる社会 ゼロ年代「高度情報化」のジレンマ』河出書房新社 2010 年
『原発報道とメディア』講談社現代新書 2011 年
『原発論議はなぜ不毛なのか』中公新書ラクレ 2013 年
『暴力的風景論』新潮選書 2014 年
『新聞ジャーナリズム』日経 BP 社 2002 年（翻訳）
『現代ジャーナリズム事典』三省堂（監修）

山田健太

- 『「くうき」が僕らを呑みこむ前に』理論社
『法とジャーナリズム 第4版』勁草書房
『ジャーナリズムの倫理』勁草書房

『沖縄報道』ちくま新書
『放送法と権力』田畑書店
『愚かな風 村度時代の政権とメディア』田畑書店
『見張塔からずっと 政権とメディアの8年』田畑書店
『言論の自由』ミネルヴァ書房
『ジャーナリズムの行方』三省堂
『3.11とメディア』トランスビュー
『放送制度概論』商事法務（共編著）
『放送法を読みとく』商事法務（共編著）
『よくわかるメディア法 第2版』ミネルヴァ書房（共編著）
『新版マス・コミュニケーション概論』学陽書房（共著）
『政治のしくみと議員のしごと』トランスビュー（共編著）
『3.11の記録』日外アソシエーツ（監修）
『現代ジャーナリズム事典』三省堂（監修）
『ジャーナリズム人名事典』日外アソシエーツ（監修）
『新聞学』日本評論社（分担執筆）
『刑事裁判と知る権利』三省堂（共著）
『デジタルフォトジャーナリズム（デジフォジャBOX）』日本新聞博物館（共編著）

野口武悟

『学校経営と学校図書館』放送大学教育振興会（共著）
『電子図書館・電子書籍貸出サービス』ポット出版（共著）
『図書館サービスの可能性』日外アソシエーツ（共著）
『一人ひとりの教育を支える学校図書館』読書工房（共著）
『特別支援教育研究文献要覧』日外アソシエーツ（監修）
『3.11の記録』日外アソシエーツ（監修）
『政治のしくみと議員のしごと』トランスビュー（共著）

藤森研

『日本国憲法の旅』花伝社
『新聞と戦争 上・下』朝日文庫（共著）
『新聞と「昭和」 上・下』朝日文庫（共著）

岩崎貞明

『放送法を読みとく』商事法務（共著）
『ユーザーからのテレビ通信簿』学文社（共著）
『キーワードで読み解く現代のジャーナリズム』大月書店（共著）

澤康臣

『事実はどこにあるのか 民主主義を運営するためのニュースの見分け方』幻冬舎新書
『グローバル・ジャーナリズム』岩波新書
『英国式事件報道 なぜ実名にこだわるのか』文藝春秋
『記者のための裁判記録閲覧ハンドブック』新聞通信調査会（共著）

以上